
酔っ払った歩美

A.I

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

酔っ払った歩美

【Nコード】

N1819B

【作者名】

A・I

【あらすじ】

このお話は、アガサ博士の机の上においてあった、カクテルを、歩美ちゃんが、勘違いして、オレンジジュースと。一気に全部、飲んでしまい、酔っ払ってしまうというお話です。

ブローグ

ある日のこと。今は、冬休み。

ここは、アガサ邸。

今日は、歩美ちゃん、哀ちゃんに用事があつて、来ていました。借りていた、本を返しに来たのです。

元太さんと光彦くんは、ご両親の実家に今回行っていて、残念ながら、いません。

灰原は、夜から、アガサ博士と一緒に、博士がちょうど、講演会のチケットが、2枚しかないからということで、哀を誘って、一緒に出かけてしまい、次の日の昼には戻るということでした。

なので、今回、一日だけ、コナンと歩美ちゃん、2人きりになるのだ。

そして、その日の夜に、事件は、起こりました。

歩美ちゃんは、博士の部屋にあつた、ジュース（カクテル）を、一気に飲んでしまいました。

この時は、誰も気づいていません。

時間がたたないうちに、酔っ払ってしまい、顔が赤くなって、すでに、「ヒック！」しだしている、歩美。

江戸川コナンは、ある変化に、気がつきます。

歩美ちゃんが、どうも、さつきから、様子がおかしいんだ。

コナンは、どうしても、心配で、気になってしまい、自分から側にやってきました。

そして、彼女の手を取り、顔を覗き込みます。

「なあ、俺の顔に何か、ついてんか？

さつきから、俺の顔見るなり、ボーっとして。

うわっ！歩美！お前、何、飲んだ？？」コナンは、驚きの声を上げた。

「ジュース・・・ヒック！」歩美は、笑顔で言うと、突然、踊りだした。

「ハー・・・パパンがパン！」歩美は、手を叩いて、踊りだしている。

「プッ！」コナンは、笑いを必死で、こらえながらも、博士の机の上にあった、カクテルを見て、推理した。

「あっ！あれ・・・バーロ・・・（カクテルを手にする）
バーカだな」

あーあ・・・オレンジジュースと同じ色じゃねーか？

そうか。こいつをカクテルと間違えて、まさか、歩美ちゃん！

さては、全部、飲んだな！！

冬休みで、マジ、良かったぜ。「コナンは、心底ホッとして、言いました。

コナンは、慌てて、「おい？どうした？しっかりしろ！」と、彼女を目覚めさせようとしたんですが、歩美は、「ヒック！！何だか、頭が・・・ボツとして。あれ？

（コナンの顔がゆがんでいる。それも、斜めに。）

コナンくんどうしたの？顔が思い切り斜めにゆがんでるよ。

お医者さん行った方がいいんじゃない？」と、顔真っ赤になりながら、心配そうな顔して、彼をのぞく。

「こりゃ、思いっ切り、相当重症だ。おい？？」コナンは、一体、どこへ行くんだと、心配でたまらなくなってしまい、ついて行くことにしました。

歩美ちゃんは、フラフラと、あっちへ、フラフラ、こっちへフラフラ。

コナンを、心配させています。コナンは、心配そうに見守ります。

「あたし、トイレに行つて来る。」と言い出し、行く場所が全然違う！！

コナンは、「おーい！一体、こんな夜に、10：30にどこ行くんだー！？

外は寒いぞ。せめて、これ着ていけ！！」と上着を着せてやりました。

コナンは、「まったく、パジャマ姿で、ドコ行くんだよー・・・」

と、困り果てながらも。

笑いをこらえながらも、止めたところで、たぶん、

酔っ払ってるうちは、何を言ってももう、無駄だと感じたコナン。なら、行動もおもしろおかしく、合わせるしかないと思ったんだ。

とりあえず、歩美が、博士の家の外へ、出たので、後についていくことにしました。

その夜。幸いにして、夜だから、人がいないので、コナン、ホッとしたのだ。

一応、何があっても、困るから、スケボーくらいはと、思い、片方の手には、スケボーを持っていた。

そして、走りながら、コナンは、歩美に声をかける。

「おい？どこ行ってんのか、自分で分ってんのか？」と・・・

「トイレ。」歩美は、それだけ言うと、向かった先は、何と、「米化公園の公衆トイレに行く！博士の家のトイレは、修理中だったもん！」と言って、行く所か、行く先は、何と、フラフラと、近くにある、カラオケ・シダックスだった。

コナンは、今回こんなことになってしまったのは、博士の家のトイレが、現在、修理中で、使えない。このことは、コナンも納得していたのです。だからこそ、こういう事件になってしまったのは、無理もないと思っただけでした。

「おい？これの、どこが、トイレなんだ？
それも、カラオケボックス？？」コナンは、カクテルの恐ろしさを
思い知ったのだった。

歩美は、中に入ると定員さんに、「ハイ！先生っ！部屋を予約し
て下さい。」

と、手を挙げて、予約してしまう。コナンは、「あーあー！学校じ
やねーよ！

これは、教卓じゃねー！何が先生だ。」

と、大慌てで、店員さんに叫びました。

真剣表情で。「今の予約、取り消して下さい！！

この子、ジュースとカクテルと間違えて、飲んじゃって、
精神的に、ちよっとおかしくなっちゃったんです！

俺、心配で、ついて来たんです！！」

と、顔を覗き込んで言いました。「ハー！？」店員さんはそれだけ
で、目が点。

おいおいと、見て見ぬフリをしていました。

歩美は、あっちへ、フラフラと、こっちへ、フラフラと、カラオ
ケ・シダックスの、トイレをようやく発見した。

そこで、入って行ったのは、何と、男子トイレ。

そこで、歩美は、男子トイレの中の、奥にある、壁に思い切り頭を
ぶつけて、

その場に、座り込みました。

歩美は、カクテルの飲みすぎにより、その場で吐いていて、

壁にもたれて、座り込んでいました。

後から歩美を探しにやってきた、コナンは、トイレを、見つけました。

そして、女トイレをこそつと除いてみたんだけど、誰もいなかったから。

これが、幸いだと思いました。しかし、誰もいないことに、驚いたコナン。

「え！？歩美！？」コナンは、まさか！！

と、思い、男子トイレへ向かいました。

そこで、コナンはビックリした、姿を見てしまう。

ゲロゲロはいて、壁にもたれて、ダウンしている歩美を発見した。

コナンは、側に慌ててかけよると、側にスケボーを置いた。

「おい？？」コナンは、笑いを必死で、こらえながらも、彼女を抱き寄せた。

「あつ！コナンくん！救急車、呼んで。」

と、意識だけは、しっかりしている様子だった。

そして。

店員さんに頼んで、救急車を呼んでもらった、コナン。

後で、「ピーポー、ピーポー。」と、救急車がカラオケシダックスへ到着。

歩美ちゃんは、担架で、男子トイレから、救出されて行った。

コナンは、「俺、つきそいです。俺も乗せて下さい。」

と、頼みました。救助隊の人は、コナンに、「たぶん、彼女はね、きつと、今日の出来事を、覚えてないと思うよ。明日、朝、目覚めたら、聞いてごらん？覚えてないと思う。」

と、言いました。コナンも、同時にうなずいては、「あー・・・」と、笑いをこらえていました。

そして、救急車の中では。

「まず、おじさんに、お名前を覚えてくれるかな？」と、メモ出した、救助隊の人。

「えつと、あたし、歩美！！小学1年生！少年探偵団！！」と、手を挙げて言いました。

「もう！！いいい！俺が言う！！」

彼女の名前は、吉田歩美です。「コナンは、全部、メモを貸してくれと、救助隊の人に、言い

彼女の家の番号と住所を書いたのですでした。

歩美は、「あつ！コナンくん？大丈夫。
すぐ、博士の家、戻るから。
事件が発生したでしょ？」

確かね、博士の家から、現金が、盗まれて。

それを、あたし達、犯人捜そうとして、解決しようとしてるんだよね！

コナンくん、何か分った？

ちなみに、犯人の手がかりは？」

と、ワケの分らんことばかり、真剣な顔して、コナンに話しています。

コナンは、さすがに、ため息。呆れてしまいました。

顔は、赤いんだけど、言うことは、メチャクチャに、コナンは、
啞然。

「あー、思い切り、別の意味で、事件発生だよ。」コナンは、言いました。

彼は、笑いをこらえるのが、大変だった。その日は、特に。

↑あーあ！明日、歩美ちゃんが、正氣に戻った後が、猛烈、楽しみだぜ！（コナンの気持ち）

コナンは、演技。

「ああ、安心しろ。俺が必ず、博士の現金を奪ったのは誰なのか。犯人を見つけ出してやつから。」

事件のあらましはな。明日、目覚めた時、話してやる。

歩美ちゃんは、早く寝なさい。」と、頭を優しく撫でて、言いました。

「うん！頼んだよ！」歩美は、それだけ言うと、その時は、「スー・」

病院着くまでに、寝てしまったのでした。

こうして、ピーポー、ピーポー。

米化病院にたどり着きました。

休診室へと、彼女は運ばれたのでした・・・

こうして、点滴をされて、寝ている彼女。

歩美は、しばらく、点滴をして、寝ていましたが、少し良くなったらしい。

看護婦さんは、「一日、泊まりますか？」と、言いましたが、「いえ！

俺が、連れ戻します。すいません。

明日、博士や、灰原が戻ってくるんですよ。だから、俺達は、夜中中に、戻らないと。」

コナンは、言いました。

「大丈夫？」看護婦さん。

「大丈夫です！俺が、このスケボーで、彼女を送りますから。後は、俺が見ます！」と、頭を下げると、彼女を、取りあえず、「よいしょ！」

と、おんぶしました。彼女は寝たまま、動かない。

コナンは、「ありがとうございます！」すると、スケボーを起動した。

ギューン

バギューン！！

こうして、歩美は、腕を、コナンの首に、捕まっただまま、寝ていたのでした。

こうして、アガサ邸にたどり着くと、コナンは、スケボーから降りて、おんぶします。

「まったく！面倒かけやがって！しょうがねーんだから！」

コナンは、中に入ると、「ほら！よいしょっと！（ベッドの上におろす）」

と、布団かぶせてやりました。上着を脱がせて。

歩美は、スーと、熟睡中だ。

コナンは、「お休み。」と、コソツと、小声で言うと、頬にキス。

そして、暗くすると、ボタン！部屋を出て、自分も、寝ました。

寝ながらコナンは、布団をかぶって、笑いをこらえていたのです。

こうして、次の日の朝を迎えました。

コナンが想像したとおりのことが、起こります。

プロローグ（後書き）

病院から、夜中中に戻ることが出来た。

次の日、歩美ちゃんは、この日のことを、覚えているのだろうか？

次回は、コナンが笑ってしまつくらいのも、発言が出てきます。お楽しみに。次回へ続く。

第1章

次の日の朝。

歩美は、朝日がカーテンの中から、光が差し込んでいたので、目を覚ましました。

自分のこのすごい状態に、ビックリした彼女は、ガバツと突然、起き上がります。

そして、ドアのとこへ、行こうとした時に、コナンが、おかゆを作って、持って来たところでした。コナンは、「あっ！おはよう！気分はどう？」と、笑顔で言いました。

「何か、頭が痛くてさ。おかしいの。気持ち悪いし変。」正気に戻った、歩美は言いました。

「昨日、夜中に、何があったのか、知ってんか？ある、事件が発生したんだよ。」

どうして、腕に、注射の後のような感じになっただのか。分る？

「コナンは、おかゆを、ひとまず、テーブルの上に置くと、茶碗に入れて、手渡しました。」

「まあ、まだ、今日は、ちよつと、休みなよ。」

しばらくは、ご飯食べたなら、寝てていいぜ。

食べれそうか？」コナンは、持って来ると、ベッドの横に座りました。

「うん。何とか。でも、あんまり食欲なくて。」

歩美は、横になると、言いました。

コナンは、おかゆを少しフーして、さますと、彼女に食べさせました。

「ハイっ！アーンして。」コナン。

「アーン。」歩美は、少し食べました。

「顔色、まだ、ちょっと、わりーな。

何か思い出せそうか？

昨日、夜、歩美ちゃんは、俺の肩に捕まって、スケボーで、戻ってきたんだぜ。それも、救急車で米化病院に運ばれてな。」コナンは、話します。

「ぜんっぜん、覚えてないんだ。」歩美は、真剣した顔して言いました。

「ほんつとに？覚えてねーのか？」コナン。「ぜんっぜん！！ねえ、どうして、

腕が、こんなになってるの？この病院の診察券は一体、何！？」パニックしている、歩美。

コナンは、彼女の横で、実はなと、ゴニョゴニョとこの事件のあらましを、説明しました。

後で。彼女の反応は。

「キャア！ウツソー！？あたし、そんなことまでした??？

で？あたし、あの後、どうなったの？？」歩美は、突然、笑い出しました。

コナンは、全部話します。

「アッハハハハ！！！」歩美は笑っています。

コナンは、「笑い事じゃねーよ！

ほんとに、覚えてないのか？？」と、笑いをこらえていたのですが、もはや、限界。

コナンは、「ゴメン。」と、後ろ向くと、突然おなかを抱えて笑い出しました。

「グッヒヤヒヤヒヤ・・・」コナンは、おなかを抱えて、「あーおかしい！！」と、笑い出しました。「笑わないでよ！！どうなったか、推理してよ！！」怒り出す歩美。

「ごめん、ごめん。」コナンは、彼女を見ては、ゲラゲラ笑い出すのでした。

こうしているうちに、昼頃になって、博士と哀が戻ってきた。

「ただいま。あら？やけに、にぎやかで盛り上がってるのね。でも、どうした？彼女、何があったの？？」

哀は、一体、何があったんだと、驚いています。

「何じゃ・・・？何か事件かのう！」博士。

「あ・・・それがな・・・」

コナンは、笑いすぎて苦しいから、後にしてくれと、言いました。

今夜話すと。時間がたって、落ち着いて。

こうして、夜を迎えました。

最終回

コナンは、夜、ことのあらましを、博士と哀に説明しました。

歩美は、午後、大変でした。

桶に、「ゲロゲロ」と10回も、吐いて重症だったので、コナンが、「ちよつと」！

もう、メチャクチャ！！

↑と言いながら、歩美に、コソコソと、「ったく、悪い博士だな。今回は！全部、悪いのは、博士だぜ。

歩美ちゃんは、悪くねーから、安心しな。被害者だから。

俺が、嚴重に、アルコールについては、大人に、これからは、注意しておいてやるな。

ちなみに、博士も車運転してっから！言っとくぞ。

今は、アルコールは、飲んで運転すればな、軽く進めた友達も、刑罰になるんだよ。

だから、今、コンパとか、飲み会で、問題なってんじゃん！若者同士のな！

アルコールは、特に気をつけなきゃダメだよ！！博士！！」

と、厳しく博士をしかりつけます。

しかりながら、優しく頭を撫でながら、歩美の側で、

「吐きたいなら、吐いちゃいな。その方が、楽だぜ。」と、背中をさすりながら、説明したのでした。

歩美ちゃんは、今回、大変なことになっていたのです。

午後になって、そりやもう、ゲロゲロで。えらいこっちゃ！

博士は、「すまん。ちょっとした、ワシの不注意じゃ。」と、申し訳ないと頭をペコペコ下げました。「もうー！ほんとに、ごめんなさいだよ。ちょっと所じゃねーじゃん！

アルコール類をな、子供がいる家庭でむやみに、机の上に、軽々しくな、置いておくもんじゃねーよ。

カクテルも同じだよ。車の運転だって、カクテルも、大禁止だからなー！！

今、アルコールは、厳しいから！ダメだよー！！たくー！」

と、コナンは、博士を、猛烈に、怒鳴って、しかりつけたのでした。

コナンは、背中をさすりながら、

「見てみるよ。歩美ちゃん、顔色もよくなーし、今日は、もう、メツチャクチャじゃん！

どうしてくれるんだ。かわいそうに。今回は、俺がついたから良かったけど！

一歩間違えたら、大変なことになるとこだったんだぞ！

博士！今回は、ちゃんと、責任取れよ！元はといえば、全部、博士だかな！

今、どれだけな、アルコールが、社会問題に発展してんのか、分つてんの！？」

と、怒った顔して、腕組んで言いました。

「いやはや、すまん。」博士は、歩美ちゃんにも謝りました。

「博士！！罰として、アルコール、全部、出せ！！俺が見事に、この家からな、処分してやるぜ！！」

コナンは、「ここは、子供がくるとこだし、元々、太り気味で、アルコール控えて下さい！と、こないだ、定期健診で病院で、言われたばっかしじゃねーか！

やめるには、ちょうどいい機会だぜ！」
と、怒って怒鳴りました。

博士は、今回、見事に、しゅるん。

小さくなっていました。

哀は、「あーあ、見事に叱られちゃったわね。

それから、食べ物も、博士は、特に、注意しないとね。

江戸川君、博士は、あたしが、厳しく見るからいいわ。」と、言いました。

「トホホ・・・」

博士にとっては、全部、楽しみだったものを、取り上げられてしまい、今回、おもしろくなかったのです。

コナンは、歩美ちゃんに優しく看病していました。

そして、2日後。

歩美ちゃんは、元に戻り、やっと、取り戻したのだった。

博士の家から、アルコール類は、全部、見事消えてなくなった。

これで、アルコール事件に発展することは、ありませんでした。

コナンは、その後、毛利探偵事務所にて。

毛利小五郎にも、アルコールについては、説教し始めたのです。

「生意気に言うんじゃないよー!」

バコッ!!

と、頭を殴られた、コナンだったのでした。

蘭が、「もう!お父さん!何も、叩くことないでしょう!」

そうよ。コナンさんの言う通りよ!

お父さん!家も、禁止するわよ!!

アルコールを全部、出さない!!」

と、怒った顔をして言いました。

「いー！？そんな～！」

アルコールのみなから、沖野ヨーコちゃん見るのが楽しみだったのに！」

と、泣きべそかきながら、蘭に、全部、持ってかれちゃったのでした。

見事に捨てられてしまったのです。

こうして、コナンの呼びかけで、社会から、少しずつ、大人の間で、アルコールは、撤退されていったのでした。

コナンの呼びかけのおかげで、飲酒運転が、少しずつ、なくなったのでした・・・

（終わり）

最終回（後書き）

今、飲酒運転や、お酒による事故が多いので、コナンで、描いてみました。大人には、必見です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1819b/>

酔っ払った歩美

2011年10月3日17時00分発行